

大刀洗町自分ごと化会議  
第2回会議の意見、改善提案シート、取りまとめ結果

■課題・提案の分類結果

1 水害の発生抑制について

- 1 冠水対策が不十分である
- 2 水害を抑制するための整備が不十分である

2 水害の最小化について

- 1 避難のあり方の再検討が必要である
- 2 水害時の避難所選定が適切とは言えない

3 日ごろの意識について

- 1 水害に関する知識と意識が不足している
- 2 防災や災害に関する情報が整理されていない
- 3 平時の準備が不十分である

## 1 水害の発生抑制について

課題①		冠水対策が不十分である
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 役場の情報を確認する。</li> <li>● 冠水した際の別の通路を把握しておく。</li> </ul>
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政区内の声掛け。</li> <li>● 冠水した際の別の通路を共有する。</li> </ul>
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水位の見える化を行う(ウェブカメラの設置)。</li> <li>● 水捌けのよい素材を使った道路に変更する。</li> </ul>
	その他の 主体の 取り組み	

課題②		水害を抑制するための整備が不十分である
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浸透マスを設置する。</li> <li>● 側溝の掃除する。</li> </ul>
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浸透マスの設置を推奨する。</li> <li>● どこにどのような側溝があるか認識する。</li> </ul>
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浸透マス設置補助金を出す。</li> <li>● 用水路の蓋を開けることのできるよう軽いものに変える。</li> <li>● 透水コンクリートを活用した公共工事や、透水コンクリートを使った住宅工事を行う際に支給する助成金制度を設ける。</li> </ul>
	その他の 主体の 取り組み	

## 2 水害の最小化について

課題①		避難のあり方の再検討が必要である
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体験型の避難訓練を地区ごとに設ける。</li> <li>● 雨雲レーダーをチェックし、早いうちに車を高台に移動させる。</li> <li>● 早めに避難所に行く。</li> <li>● 避難所の経験を試してみる。</li> <li>● 避難方法を家族で話し合う。</li> <li>● 危険を感じる時は動かない。</li> <li>● 自宅での避難する際に必要なものは何かを考えてみる。</li> </ul>
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年に1回でも地域で避難訓練をする。</li> <li>● ハザードマップを確認し、自治区内で声を掛け合うなど。</li> <li>● いざという時は助け合う。</li> <li>● 避難するとき、近所に声かけをするなど、地域の方々と協力し合う。</li> </ul>
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大刀洗町で、災害体験の予算をつける。</li> <li>● 区長や民生委員など皆で話し合いコミュニティを活性化することで、皆の避難意識を高める。</li> <li>● 避難を周知する際、見やすい・わかりやすい指示や案内を出す。</li> <li>● 巡回して危険個所をチェックする。</li> <li>● 防災無線を活用する。</li> <li>● 避難所で使うアプリが大刀洗町で使えないことや定点カメラの数が少ないなどの課題を解決するために、事業者にお願いして大刀洗町のアプリやシステムを作ってもらおう。</li> <li>● 避難所を早めに開ける。</li> <li>● 垂直避難など自宅での避難方法についての情報を出していく。</li> </ul>
	その他の 主体の 取り組み	

課題②		水害時の避難所選定が適切とは言えない
改善 提案	個人の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難場所を把握する。</li> </ul>
	地域の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各公民館などを開放する。</li> <li>● 一人暮らしの高齢者や障害を持つ人がいる家をチェックする。</li> </ul>
	行政の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 台風の時、水害の時など分けて、適さない場所はリストから外す。</li> <li>● 「避難所だけが避難ではない」を具体的に周知する。</li> </ul>
	その他の 主体の 取り組み	

### 3 日ごろの意識について

課題①		水害に関する知識と意識が不足している
改善提案	個人の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水害に備えて備蓄物などのことを家族で話し合う。</li> <li>● 水害について学べるセミナーなど情報収集をして参加する。</li> <li>● 配布資料の冠水写真を見せて近隣の住民と話し合う。</li> <li>● 情報を集め、体験する(知ること、知ろうとすることが必要)。</li> <li>● 防災の教室や定点カメラ等の町が行っているイベントやシステムについて把握する。</li> <li>● 災害についての興味を持つようにする。</li> <li>● 大雨の予報が出ているときは事前に地域の周りの点検整備をする。</li> <li>● 避難訓練の時に、近年の激しい気候変動について危機意識を持たせる。</li> <li>● 実際に水害などの災害を経験された方に話を聞く。</li> </ul>
	地域の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地区行事の中で、水害についての対策について話し合う。</li> <li>● 防災訓練やセミナーを楽しみながら興味を持って参加できるような工夫をする。</li> <li>● 地域企業を巻き込んで、テントを利用したり炊き出しをしたり体験型のイベントを開催する(地域のコミュニケーションの場にもなるし、避難した際の実体験ができる)。</li> <li>● 行政区を細かく区切ってそのエリアの状態や状況に応じてどう行動したら良いかや避難の基準などを発信していく。</li> <li>● 大雨や台風の予報が出ているときは地域全体の点検整備をする。</li> <li>● 区長や、防災士、消防団と協力して、子供会なども巻き込んで、災害啓発イベントをする。</li> </ul>
	行政の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地区ごとに、防災士または消防団の人に、水害についての知識を取得してもらう。</li> <li>● インスタや公式 LINE を活用してバンバン宣伝する(面白そう！参加してみたい！と思わせる企画)。</li> <li>● 冠水状況の資料配布、映像制作などを行い、ホームページや youtube チャンネルなどで周知する。</li> <li>● ドリームまつりなど人が集まる時に体験会を行う、もしくは親子で参加する学校行事の際などに避難所体験教室をする。</li> <li>● ハンドメイド市場や、地域の特産物を売買できるような集客も見込んだ防災イベントを行う。</li> <li>● 災害に応じて開設されない避難所もあるなど、定期的に市政だより等を通じて災害に対する意識を持てる記事を出して情報共有していく。</li> <li>● ハザードマップや定点カメラなどの情報をもっと見やすく掲載する。</li> <li>● 住民がよく利用する場所(スーパーやコンビニ等)にその周辺の情報を発信してもらえよう依頼する(この周辺の避難場所は〇〇です等)。</li> <li>● AR(拡張現実)機能を使った「ここまで水は上がってくる」アプリみたいなものを作ってもらい、危機感を住民に持ってもらう。</li> </ul>
	その他の主体の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● NPO や企業が、水害に対する怖さ、知識を広げるために催物をする。</li> <li>● テレビを通じて、平時と災害時の比較映像を流し、水害を身近に感じ取ってもらう。</li> </ul>

課題②		防災や災害に関する情報が整理されていない
改善提案	個人の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サイトが整理されたら、どこを見たらいいのか、ご近所の高齢者などに伝える。</li> <li>● 町のLINE を使って情報共有する。</li> <li>● 現在どういう状態か、今後の予想について情報を積極的に収集し、町役場の発する情報をチェックし続ける。</li> <li>● 防災に関するアプリを利用してみる。</li> </ul>
	地域の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スマホを使わない高齢者を助けるネットワークを作る。</li> </ul>
	行政の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報の発信を早急にできるようさらに工夫する。</li> </ul>
	その他の主体の取り組み	

課題③		平時の準備が不十分である
改善提案	個人の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セミナーや避難所体験などに参加し、かつハザードマップを読んでおく。</li> <li>● 自宅のふろ場などに雨水をためる工夫をする。</li> <li>● 自分たちの避難場所を確認しておく。</li> <li>● こまめに家電製品の電源を切る。</li> <li>● 家電の買い替えの際は消費電力の少ない機種を選ぶ。</li> <li>● 太陽光発電や蓄電池の設置をする。</li> <li>● メディアやインターネット等で災害の情報を知り、非常時の行動をシミュレーションする。</li> <li>● 平時から何事にも問題意識を持つ。</li> <li>● 水害に備えての食料や水、電気などを準備する(持ち出し袋、備蓄品など、水害時に備え浮き輪も準備する)。</li> </ul>
	地域の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時にお互いで協力できるように日頃から近所や組合の方々とは良好な関係を築いておく。</li> </ul>
	行政の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 備蓄品を購入する費用を予算計上し、確保する。 水、食料の確保し町民配布できるようにしておく(役場や各公民館など避難所になるところに保管)。</li> <li>● 定期的に現場の巡回を行う。</li> <li>● 地域のコミュニティが薄いところは行政が入り、地域のコミュニティを活性化する。</li> <li>● ドローンを購入する(災害発生時の避難者捜索などに使用)。</li> </ul>
	その他の主体の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業が有事の際の船(ボート)を用意しておく。</li> </ul>

